

1. 目標標準拠評価としての 観点別評価の捉え方

京都大学大学院教育学研究科・准教授
石井 英真

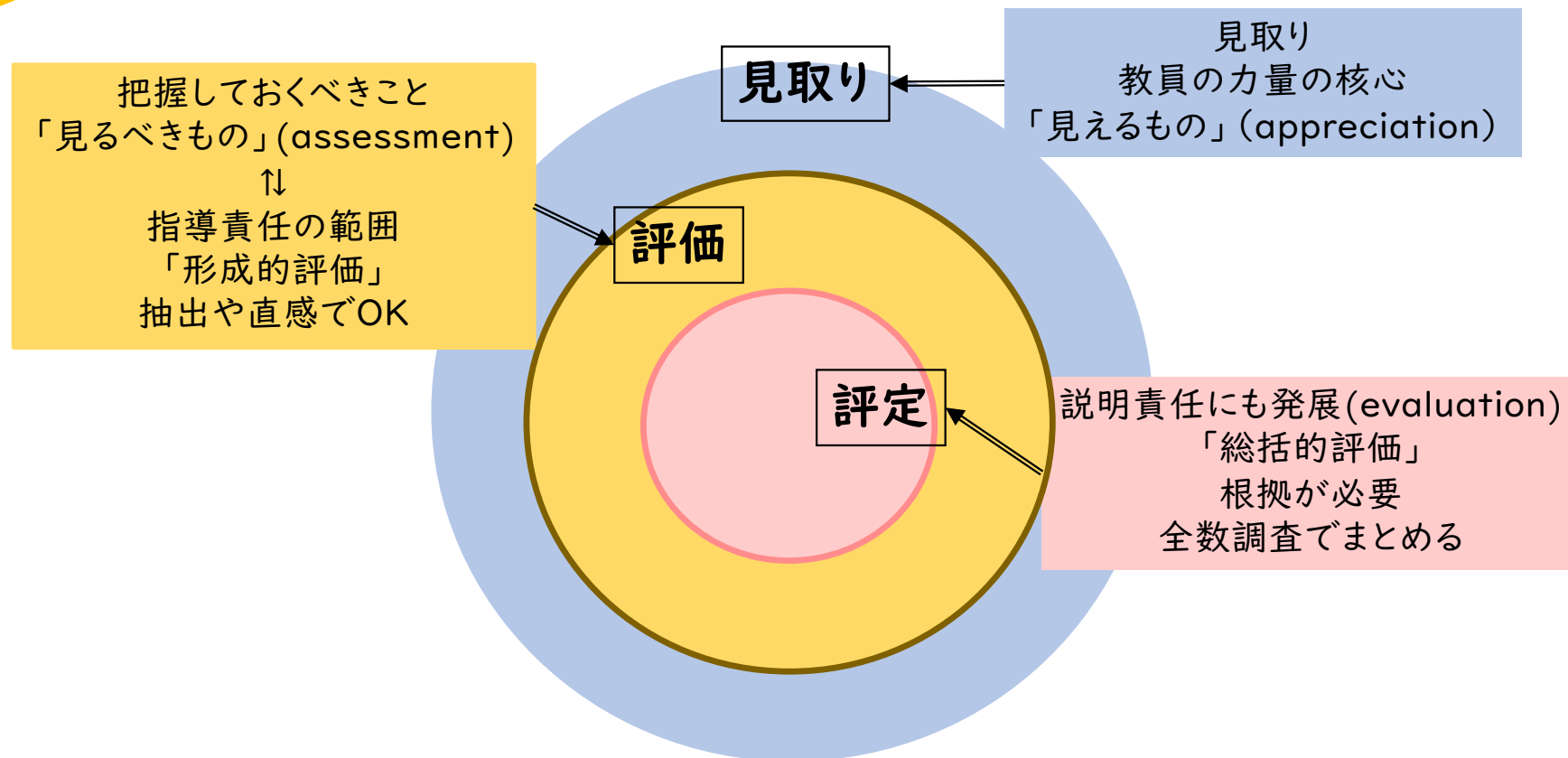
学習評価改革を進めていく上での羅針盤

- ・形成的評価と総括的評価を区別し評価材料を集める場面を重点化する（「指導の評価化」に陥らない）。
- ・評価は授業の鏡、観点別評価を「学びの舞台」づくりにつなげる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は「出口の情意」（試行錯誤、工夫、問いの生成・展開）として捉え、「思考・判断・表現」の充実を本丸にする（情意の評定を管理の道具にして学校を息苦しくしない）。

学習評価改革を進めていく上での羅針盤

- ・形成的評価と総括的評価を区別し評価材料を集める場面を重点化する（「指導の評価化」に陥らない）。
- ・評価は授業の鏡、観点別評価を「学びの舞台」づくりにつなげる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は「出口の情意」（試行錯誤、工夫、問いの生成・展開）として捉え、「思考・判断・表現」の充実を本丸にする（情意の評定を管理の道具にして学校を息苦しくしない）。

形成的評価と総括的評価、評価と評定の違いを区別する



授業では、「形成的評価」として子どもを全体として把握しつつ、一人ひとりをしっかりと伸ばす。そして、単元末や学期末など、しっかりと伸ばし切ったところで、確実に身に付いたかを全数調査(学びの舞台)でしっかりと確かめて評定(=「総括的評価」)する。(出典: 石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.10。)

「観点別評価」と「指導と評価の一体化」の課題

- これまでの小・中学校の観点別評価は、ややもすれば毎時間の授業の過程で、教師の丁寧な観察により思考・判断・表現や関心・意欲・態度の表れを見取り記録に残す評価として捉えられがちである。しかし、そのような形での観点別評価は、評価の問題を授業過程での子ども理解一般（見取り）と混同することで、評価対象を無限定に広げることにつながり、それゆえに、授業において教師は常に評価のためのデータ取りや学習状況の点検に追われることになりかねない（「指導の評価化」という問題）。

学習評価改革を進めていく上での羅針盤

- ・形成的評価と総括的評価を区別し評価材料を集める場面を重点化する（「指導の評価化」に陥らない）。
- ・評価は授業の鏡、観点別評価を「学びの舞台」づくりにつなげる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は「出口の情意」（試行錯誤、工夫、問いの生成・展開）として捉え、「思考・判断・表現」の充実を本丸にする（情意の評定を管理の道具にして学校を息苦しくしない）。

小学校5年生の家庭科の事例から

題材名

「できるよ、家庭の仕事」 A-(2)、(4)

題材目標

学んだことを生かして自分にできる家庭の仕事について日常生活から問題を見出し、課題を設定し、様々な解決方法を考えて、実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。

出典：石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.25に掲載の岸田蘭子先生作成資料より

題材の学習計画

第1次 ①自分にできる家庭の仕事について考える。課題設定

(これまでの学習で学んだことや家庭で行っている仕事について振り返りできるようにしたことを発表する)

②家庭の仕事についてタブレットし調べ自分の家庭にあった方法を考える 課題解決の方法を考える

第2次 ③実践してきたことについて自己評価し、中間の振り返りをする。

保護者のコメントをもとにして改善方法を考える。評価・改善

④自分の実践を発表し、友達とアドバイスし合い改善方法を考える。

⑤実践した結果を評価・改善し新たな課題を見つけ次の実践に取り組む。新たな課題の発見

出典:石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.25に掲載の岸田蘭子先生作成資料より

題材計画と評価計画（場面・方法）の必要性

第1次①課題設定

★知・技

思・判・表

②課題解決の方法を考える



主体的に学習に取り組む態度

第2次③評価・改善



④評価・改善



⑤新たな課題の発見



★★が記録に残す評価（総括的評価）

↓ は指導に生かす評価（形成的評価）

具体的な姿を基準にしたものがルーブリック

この題材のヤマ場（課題）は一体どこか

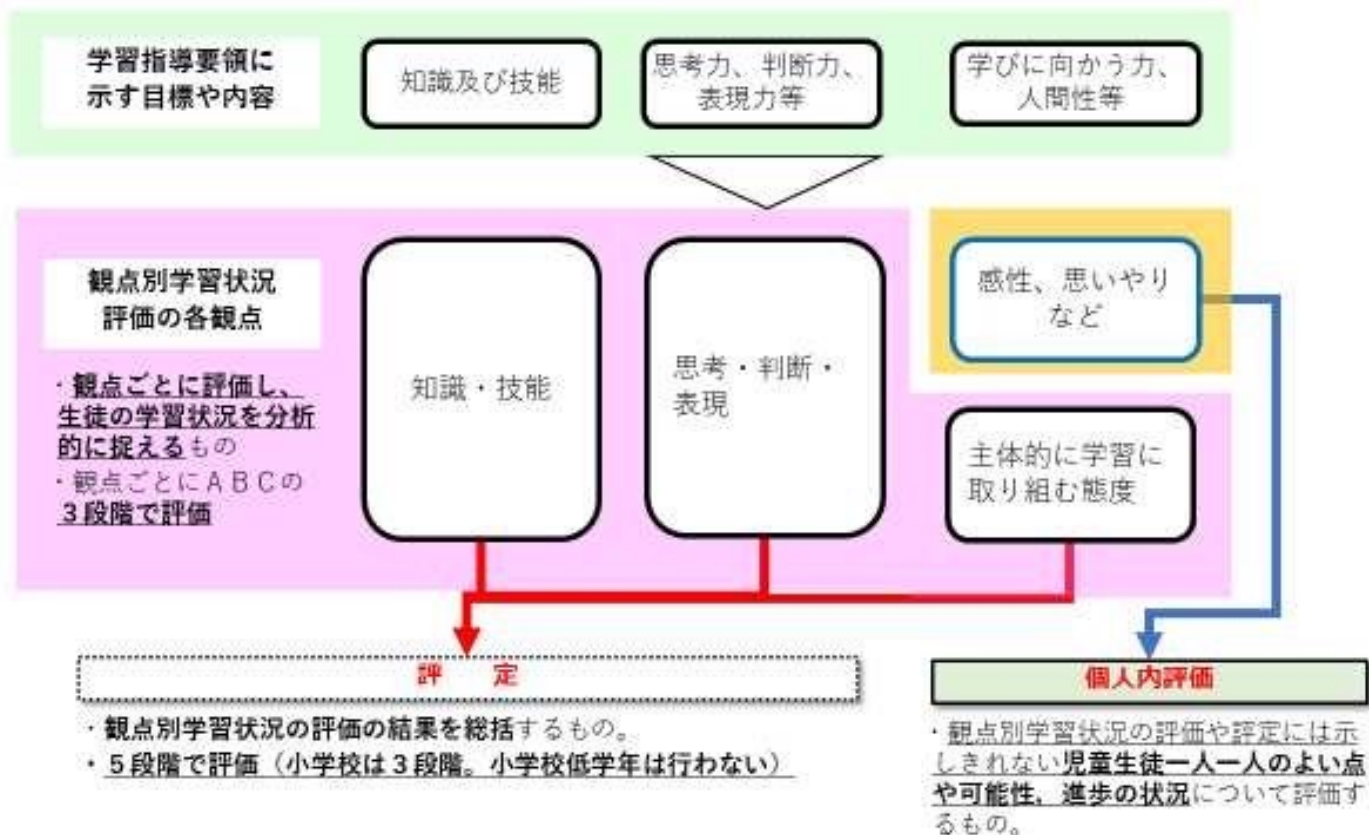
出典：石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.25に掲載の岸田蘭子先生作成資料より

学習評価改革を進めていく上での羅針盤

- ・形成的評価と総括的評価を区別し評価材料を集める場面を重点化する（「指導の評価化」に陥らない）。
- ・評価は授業の鏡、観点別評価を「学びの舞台」づくりにつなげる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は「出口の情意」（試行錯誤、工夫、問いの生成・展開）として捉え、「思考・判断・表現」の充実を本丸にする（情意の評定を管理の道具にして学校を息苦しくしない）。

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2019年1月)

表.「主体性」のタクソノミー（学びや活動への関与と所有権の拡大のグラデーション）

| | | | |
|------|------------------------|--------------|--------|
| 特別活動 | 自治（変革人：エージェンシー） | 社会関係を創りかえる | 出口の情意 |
| | | 対象世界を創りかえる | |
| 総合学習 | 人間的成熟（なりたい自分：アイデンティティ） | 軸（思想）の形成 | ↑ ↓ |
| | | 視座の高まり | |
| 教科学習 | 自律（探究人：こだわり） | 自分事への問いの深化 | |
| | | 問いの生成 | |
| 教科学習 | 学び超え（生涯学習者・独立的学習者） | 思考の習慣（知的性向） | |
| | | 関心の広がり | |
| 教科学習 | 学習態度（自己調整学習者・知的な初心者） | 方略的工夫 | |
| | | 試行錯誤 | |
| 教科学習 | 関心・意欲 | 積極性（内発的動機づけ） | |
| 教科学習 | 表面的参加 | 受身（外発的動機づけ） | |

出典：石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.57。

本時のルーブリック (ポイント表と予備的ルーブリック)

出典:石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.25に掲載の岸田蘭子先生作成資料より

できるよ、家庭の仕事

| | ★★★ | ★★ | ★ |
|----------|--|---|---------------------------------------|
| 思考・判断・表現 | 複数の課題を見出し、それらの解決する方法を <u>具体的にわかりやすく書く</u> ことができた。 | 複数の課題を見出し、それらの課題を解決する方法を書くことができた。 | 課題を見出し、課題を解決する方法を書くことができた。 |
| 主体性 | <u>これからも仕事をずっと続けていくためにどうしたら良いのか</u> 、友だちの意見を聴くなどして、今後の生活を改善したり、生活を工夫し、家庭で実践しようとしている。 | 友だちの意見を聴くなどして、今後の生活を改善したり、生活を工夫し、家庭で実践しようとしている。 | 生活をよりよくしようと、実践をふり返り、今後の生活を改善しようとしている。 |

| | |
|--|---|
| | <p>友だちからどんなアドバイスを受けて、取り入れようと思ったのか。</p> <p>A:自分はいつも「バスマジックリン」を使い、洗剤をかけた後に力を入れてこすっていたけれど、<u>〇〇さんからのアドバイスで、洗剤にはたくさんの種類があり、浴室の床のぬめりを取るには、アルカリ性の洗剤を用いることが効果的であることを知ったので、次のときには、アルカリ性の洗剤を使って掃除をし、効果があれば続けていきたいと思っています。</u></p> <p>B:<u>〇〇さんからのアドバイスで、洗剤には中性以外にもアルカリ性などがあることを知ったので、次の実践のときには、それも使って掃除をしてみたいと思います。</u></p> <p>C:洗剤にはたくさんの種類があることを知った。(友だちの意見やアドバイスから改善方法が考えられていない。)</p> |
|--|---|

◇ 教科・科目 国語・現代の国語

◇ 単元の目標

- (1) 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。〔知識及び技能〕(1) ア
 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。〔知識及び技能〕(1) エ
- (2) 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、相手意識に基づき、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。〔思考力、判断力、表現力等〕 「B 書くこと」(1) ウ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

◇ 単元計画

○ 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | 「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、相手意識に基づき、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 | 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、相手意識に基づいて適切な言葉を選択し、効果的に表現する工夫をしている。 |

○ 指導と評価の計画（全5時間の4時間目）

| 時 | 学習内容 | 学習活動 | 評価 | | | |
|---|---|--|----|---|---|----------------|
| | | | 知 | 思 | 主 | 評価方法 |
| 1 | 文章の読解 ・古今和歌集仮名序（記 貫之） ・言葉の力（大岡 信） | ・単元全体の見通しをもつ。 ・心を動かされた言葉について考える。 ・複数の文章を読み、言葉の力について説明する。 | ○ | | | ・記述確認（ワークシート） |
| 2 | キャッチコピーの表現の特徴 | ・動画の視聴（NHK for education） ・企業のキャッチコピーを調べ、表現の特徴について考える。 | ◎ | | | ・記述分析（ワークシート） |
| 3 | キャッチコピーを考える。 | ・〇〇高等学校の情報を集め、キャッチコピーの材料となる語彙を増やす。 ・4人でグループとなり、キャッチコピー案をなるべく多く考える。 | ○ | ○ | | ・観察法 |
| 4 | キャッチコピーを考える。 | ・キャッチコピー案について根拠を基に取捨選択し、グループでの最終案を決定する。 ・校長先生へのプレゼンテーション用の説明内容を考える。 | | ◎ | ◎ | ・パフォーマンス課題 |
| 5 | キャッチコピーを考える。 | ・クラス内で発表し、相互評価を行う。（質問・批評） ・相互評価を参考に、キャッチコピー作成について振り返りを行う。 | | | ○ | ・自己評価（振り返りシート） |

※ ◎：記録のための評価、○：改善のための評価

現代の国語

単元：言葉がもつ力や働きを理解し、人の心を動かす表現を考えよう。（書くこと）

【パフォーマンス課題】

あなたは、キャッチコピーライターです。コロナ禍の影響で中学生対象の学校説明会を開くことができなくなった〇〇高等学校から、学校案内の表紙に掲載するキャッチコピーを依頼されました。充実した高校生活を過ごしたいと考えている中学生やその保護者の心をつかむために、〇〇高等学校の魅力をもっと簡潔に表した表現を考えなくてはなりません。

〇〇高等学校のキャッチコピー及び校長先生へのプレゼンテーション用の説明を考えなさい。

出典：石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論』図書文化、2023年、p.99,121に掲載の広島県教育委員会高校教育指導課提供資料より

【ループリック】

| | A | B | C |
|--------------------|--|--|--|
| ② 思考・判断・表現 | キャッチコピーを見た人が〇〇高等学校に興味・関心を抱き、入学したいと考えるような言葉を考え、文の組み立てや表記の仕方、表現技法等の優れた工夫を凝らしている。 | キャッチコピーを見た人が〇〇高等学校に興味・関心をもつ言葉を考え、文の組み立てや表記の仕方、表現技法等の工夫を凝らしている。 | キャッチコピーを見た人が〇〇高等学校に興味・関心を引く言葉を考え、文の組み立てや表記の仕方、表現技法等の工夫をしている。 |
| ③ 主体的に学習に取り組む態度 | 作品の完成に向けて、相手（中学生・保護者）や目的（〇〇高等学校の学校案内）に関する多くの情報を収集・整理・分類しながら、多面的に考察して、表現を練り上げようとしている。 | 作品の完成に向けて、相手（中学生・保護者）や目的（〇〇高等学校の学校案内）に関する情報を収集・整理・分類しながら、表現を選んで組み合わせようとしている。 | 作品の完成に向けて、相手（中学生・保護者）や目的（〇〇高等学校の学校案内）に関する情報を収集しながら、表現に結び付けようとしている。 |